

| 出題分析 | | |
|---|----------|--------------------------------|
| 試験時間 90 分 | 配点 150 点 | 大問数 4 題 |
| 分量（昨年比較）〔減少 同程度 増加 〕 | | 難易度変化（昨年比較）〔易化 同程度 難化 〕 |
| 【概評】 今年も例年通り，記述形式の問題が 4 題出題された。 頻出分野の微分は出題されたが，積分が出題されなかった。 確率が出題されなかったが，場合の数が出題された。 また，図形に関する問題がほとんどなかった。 | | |

| 設問別講評 | | | |
|-------|----------------------------|---|-----|
| 問題 | 出題分野・テーマ | 設問内容・解答のポイント | 難易度 |
| 1 | 微分 ・増減表 ・接線 | (1)は，得点したい。 (2)は，数値計算が煩雑なので焦らず計算したい。 | 標準 |
| 2 | 場合の数，三角比 ・数え上げ ・余弦定理 | (1)(2)は，表にまとめる，辞書式配列で書き出すなど，書き出して数えると考えやすい。 (3)は，(2)ができた者は確実に取りたい。 | やや易 |
| 3 | 数列 ・漸化式 ・和 | (1)は，与えられた漸化式を考えやすい形に変形できるかが鍵。 (2)は，(1)の漸化式を解釈し，数列 $\{b_n\}$ の一般項が求められれば難しくない。ただし，解法によっては場合分けに注意が必要。 (3)は，(2)ができた者には易しい。 大問 3 は全体の出来によって，大きく差が付くだろう。 | 標準 |
| 4 | 式と証明 ・恒等式 ・不等式の証明 | (1)(3)(4)は，与えられた恒等式に，適当な数値を代入して解答を進めるとよいが，経験のない者も多かっただろう。 (2)は，偶数乗を利用して証明できる。 | やや難 |

合格のための学習法

例年、「場合の数・確率」、「微分・積分」からの出題がある。その他の分野では、「図形」に関する出題が多い。「三角比」「平面幾何」「ベクトル」の演習も大切である。また、計算力が必要な問題が増えているので、計算練習を日課としてほしい。

また、解答用紙とは別に4枚の白紙（B4サイズ）が与えられるので、十分に計算用紙を使い、答案を簡潔にまとめる訓練も大切である。

今年は、**1**、**2**、**3**のうち1つか2つを完答したい。**4**は(2)を飛ばして、(1)(3)(4)と考えることもできるので、出来そうな問題を食欲に取り組み、全体で65%を超えたい。考え方が難しい問題は多くないので、落ち着いて計算ミスせず進めたかが合否を分けそうだ。